

2017年6月

八王子市議会報告

なるみゆり、前田よし子のHPで一般質問の動画が見れるようになりました☆

(一般質問)

生活者ネットワーク・社会民主主義・市民自治の議会報告



なるみゆり

いのちのとりで生活保護 見えないジャンパーは着ていないか

今年1月、小田原市で「生活保護なめん」という威嚇的な文言を背中に記載したジャンパーを着用していたという事が問題となりました。10年にもわたり、誰も疑問視しなかったといえます。なぜそのような状況に陥ったのか。この問題の本質を見極め、八王子市の生活保護行政について質問をしました。

回り、負担が大きい。

Q ケースワーカーは利用者との信頼関係を求められる役割。やりがいを感じられる職場にしているためにも、一人あたりの負担を減らすべき。ケースワーカーの人員増、法基準に則った適正な配置について考えは？

市長 これまでも増員を図り、業務を類型化して効率的な執行体制を整えている。今後も正規職員と専門職員との連携を図りながら、より細やかな運用を行っていく。

Q 不正受給取り締まりが目的になってはいけない。様々な生きづらさを抱えた方への言動は、そのつもりがなくても差別やパワハラと受けとられることがある。改めて、差別や偏見を是正する取組みが必要だがどう考えるか？

市長 市職員は全体の奉仕者として誠実かつ公正に職務を執行する義務がある。引き続き、研修を通じて職員のスキルを高め、受給者の立場に十分配慮した適切な制度運用を行っていく。

認知症になっても安心して暮らし続けるために

Q 認知症家族サロンの視察をもとに、第7期介護保険事業計画の策定に向けて認知症の取組みを質問しました。

Q 今年3月、認知症ガイドブック(ケアパス)が完成した。これを活用して認知症の方を地域で支える仕組みをどのように作っているのか。生活圏域ごとの支援のとらえ方、地域ごとに支える仕組みづくりについてどのように考えるか。

A 市、事業者、地域住民が連携してそれぞれの役割を果たしている。

くことが必要。認知症サポートセンターや、高齢者あんしん相談センターで実施する地域ケア会議を活用した地域の関係者のネットワーク構築等、すすめていく。



前田よし子

八王子東部地域、市境エリアの今後

バイオマスエコセンター再稼働の可能性、リニア上小山田立坑、町田市資源化施設建設など、様々予定されている町田市との市境エリア(八王子市南大沢・別所地域、町田市北部丘陵)の今後について、質問しました。

Q 上小山田リニア中央新幹線の立坑について。JR東海の環境影響評価書と地元への説明会で、土砂搬出ルートは、立坑から南側、多摩境通りを100%通ると示された。それに対し町田市は、「多摩境通りは通常から交通渋滞が激しく影響が大きい、北側への分散を」と要請している。八王子市としても、JR東海の検討結果等を注視し、必要な対応を取るべき。担当所管は？

A 交通企画課が窓口となる。本市にも影響があると考えられる場合には、JR東海に説明を求めたく。

Q バイオマスエコセンターについて。事業者のイズミ環境が民事再生の申請をし、新たに手をあげた企業がスポンサー契約をした。スポンサーへの認識と今後について、市の考えは？

A スポンサー企業は、関係法令等に定められた基準を満たしている事業者であると認識。市としてはこれまで同様、事業者による万全な臭気対策が講じられ、地域住民が安全に安心して暮らせる環境を確認したうえで、再稼働の可否

については慎重に判断する。

★今後開かれるであろうバイオマスエコセンター事業者説明会において、関連して地域の様々な問題に質問が広がり、八王子市へも所管外の質問が及ぶことも想定される。周辺自治体との連携、庁内連携、情報収集等、市民の立場にたった対応を求めました。

個人情報保護法に関する問題について

5月30日、改正個人情報保護法が施行され、個人情報の定義とルールが明確化された一方、個人を識別できないように個人情報を加工した非識別加工情報(パーソナルデータ)はビッグデータとして活用できるようになりました。国においては、改正行政機関個人情報保護法の施行により、国が持っているデータを非識別加工をすれば、民間に提供できるようになりました。

Q 行政機関個人情報保護法の変更で、八王子市にも「非識別加工情報を提供するための仕組みの整備に留意することが求められる」との通知が来ているが、市としての受け止めと今後は？

A 個人情報の加工の方法などが現状では明確になっていない状況であり、今後の国の動向を見極めて慎重に検討してゆく。

★他にも、市内事業所への市民税・都民税特別徴収税額通知書にマイナンバーを全桁表示したことについて(従業員給与天引き事務にはマイナンバーは必要ない、他25市は全桁非表示または一部のみ表示の対応)、八王子市が日本初となるヘルスケア領域における※ソーシヤル・インパクト・ボンド導入予算を成立させたその経緯と契約について、公の機関が行う保健指導やデータヘルス計画について等、個人情報に関する事項について、さまざま質問をしました。

※ソーシヤル・インパクト・ボンド
社会的な課題を解決する事業(ソーシヤルビジネス)への投資の1つ。金融機関が発行する債券を購入した(機関・個人)投資家に対し、その事業の成果に応じた配当が行われる。配当の原資には、事業収益に加えて、社会的な課題解決の貢献度に応じて支払われる国や自治体の財政支出も含まれることが特徴。



リレーコラムでこれまでの活動を紹介します。

八王子ネット30周年特別企画

③空きビンはゴミなんかじゃない

リサイクル部会 鈴木登紀子

30年ほど前、不燃ゴミの処理が早急の課題となっていた。というのは、八王子市の戸吹の最終処理場は計画よりも早く埋め尽くされそうと、増大し続ける不燃ゴミの量に私たちが埋立地がこの先何年持つのか、危機感を覚えた。ゴミを減らすしかない。生活者ネットワークは活動の実績をもとに、市議会へ一般質問するとともに、予算要望書などでゴミの分別回収を訴えた。
「空きビンはゴミではない」という思いで、1987年から有志による空きビンの色別回収を始め、収集とリサイクルは相模原市の山村硝子(株)が担った。91年11月にはめじろ台が市の資源回収のモデル地区になり、92年には自主回収ポイントが65か所に増え運搬は広がった。92年には八王子市に「リサイクル条例」の



市民の手で空きビン色別回収。地道な努力が実を結び、全市でビン回収が始まった。

人と地域と世界とつながる みんなの場 (bar)

私は西八王子の喫茶店に間借りして、小さなコミュニティバーを週に2日開いています。なぜかフェエではなくバーかという、平日の昼間に働く人に来ていただきたいから、またお酒を飲みながら社会的な話をしたり、楽しい時間を共有したり、人と人がつながる場を作りたいと考えたからです。私はこれまで開発教育の参加型ワークショップのファシリテーターや地域の日本語学習の場など、人々が集い、学びあう場づくりを実践してきました。そのような経験を通して、世界と自分とのつながりを知ること、社会に参画していくことが、豊かな人生につながることを確信しました。ワークショップに来る人はすでに学ぶ意欲が高い人、情報を得ている人です。本場に必要な人は、そのような場があることを知らない人、特にこれからの未来を担う働き世代こそが、家でも会社でもないサイドプレイスで様々な



喫茶 miracle 内 八王子市千代町 2-4-17 mokkinbar@gmail.com

【バーでの催し】
ほろ酔いウクレレ教室&バー
(毎月1回火曜日18時) 対話バー、もつきん読書会、ライブ等